

HTML だけを用いて書かれた Web 文書の場合は、ユーザーがマウスをクリックするなどのアクションがあると、ブラウザはそのアクションを遠隔地の WWW サーバに伝え、その応答を待って新しい表示をする必要がある。

Java を使っている場合は、**アプレット** (applet) と呼ばれる Java のプログラムが HTML に埋め込まれており、サーバからブラウザへダウンロードして実行する。するとユーザーのアクションに対して、ブラウザの中で実行されているアプレットが即時に反応することができる。こうして、インタラクティブ性の高いページを記述することが可能になる。

Q 1.2.1 HTML 中に埋め込まれ、サーバからブラウザにダウンロードされて実行される Java のプログラムを何と呼ぶか？

答: _____

Java の情報のページ

<http://www.oracle.com/technetwork/java/> (Java の本家)

<http://javanews.jp/> (日本語 Java News)

このように、アプレットと呼ばれる Java のプログラムはネットワークを通じて別のコンピューターに移動して実行されることになる。このような使い方をするためには **安全性** と **可搬性** という特徴が重要になる。

安全性 これは、簡単にいえばアプレットを使って他人のコンピューターに悪戯をすることができない、ということである。もし、ホームページに任意のプログラムを埋め込んでブラウザ上で実行させることができれば、ハードディスク中のデータを消去してしまうなどのイタズラが簡単に行なえる。

安全性を保障するためには、まずプログラムにファイル操作などをさせない、などの制限を課する必要があるが、C のような言語では、ポインタ (アドレス) 演算や無制限な型変換などの仕組みを通じて、いくらでも抜け道を作ることができる。Java はポインタ演算を明示的に提供せず、このような抜け道がないよう設計されている。

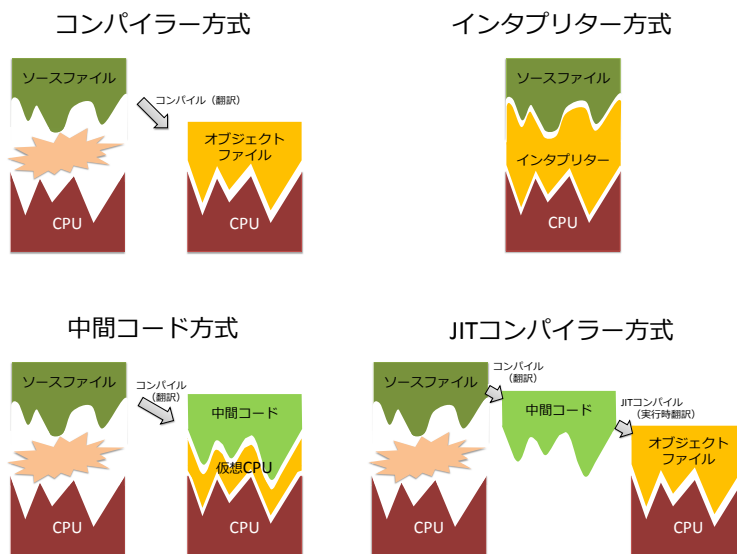
注: 基本的には、Java の処理系や基本ライブラリーが適切に設計されていれば、アプレットは安全に実行できるはずなのだが、Java の脆弱性 (不具合) をついた不正アプレットが多く現れ、対処しきれなくなったため、¹ 2014 年 1 月の Java 7 update 51 から Java アプレットに以下で説明する署名が必須となった。

アプレットでファイル操作などがまったくできないというのでは困る場合もある。アプレットの作成者の署名を付加し、そこで作成者が明確なアプレットにファイル操作などを許す署名つき (signed) アプレットという仕組みがある。

¹公式な発表ではないが、はっきりとした理由がわからないため、このように推測するしかない。

可搬性 Web ページに埋め込まれるということは、さまざまな機種のコピューターで実行される可能性があるということである。つまり、Java のアプレットに機種依存性があるてはいけない。_____ (空欄 1.2.1) を用いる実行方式ではプログラムが機械語に翻訳されるため、機種依存性は避けられない。一方、_____ (空欄 1.2.2) を用いる方式では、各機種毎にインタプリターを実装するだけで良いが、効率が犠牲になる。このため、Java では _____ (空欄 1.2.3) という方法をとる。

Java のプログラムは Java コンパイラーによって _____ (空欄 1.2.4) (Java Virtual Machine, Java 仮想機械) という仮想 CPU のコードに翻訳される。この仮想コードを各 CPU 上の JVM エミュレーター (一種のインタプリター) が解釈・実行する。



この方法は Java プログラムを直接インタプリターで解釈・実行するよりは高速である。しかし、現在では JVM コードをより高速に実行するために **Just-In-Time** (JIT) コンパイラーというものを用いて、JVM コードを実行しながら各 CPU の機械語へ翻訳する、という方法を用いる。

また、グラフィックスやネットワーク、スレッドに関する標準ライブラリを持つことも、それまでのプログラミング言語にはなかった重要な特徴である。

このように当初、Java はアプレットを作成するための言語として広まった。しかし、現在では、インタラクティブな Web ページを作成するためのブラウザ側の仕組みとしては、Adobe Flash などが主流となって、Java アプレットは比較的マイナーな存在になっている。一方で Java の上記のような性質は、他の分野のアプリケーションでも役に立つため、現在はむしろアプレット以外のアプリケーション (例えば WWW サーバー側で動作してウェブページなどを動的に生成する **サーブレット** (Servlet) などのプログラム) を作成するために、広く用いられるようになってきている。しかし、オブジェクト指向など Java のさまざまな特徴を理解するためには、現在でもアプレットは良い教材である。

WWW サーバー側プログラム用のプログラミング言語としては、Perl, PHP, Python, Ruby など有名だが、これらは動的型付けを採用している。つまり、実行時まで型エラーは検出しない。Javaはこれらと違い静的型付けを採用している。つまり、実行前(コンパイル時)に型エラーを検出する。一般に静的型付けは大規模で信頼性が必要とされるシステムの記述に適している。

Q 1.2.2 Java の中間言語を実行する仮想 CPU を何と呼ぶか？

答: _____

Q 1.2.3 次の文章のうち、正しいものに 、誤っているものに をつけよ。

- Java ではポインタのインクリメントなどの演算を許すので、アプレットに安全上の問題が起こる可能性がある。
- Java は安全性を高めるために、ポインタ演算を明示的にプログラマーに提供していない。
- Java は可搬性と効率を両立するために、純粋なコンパイラ方式でもインタプリタ方式でもなく中間言語方式をとる。

Q 1.2.4 Web サーバー上で動作し、Web ページなどを動的に生成する Java のプログラムを何と呼ぶか？

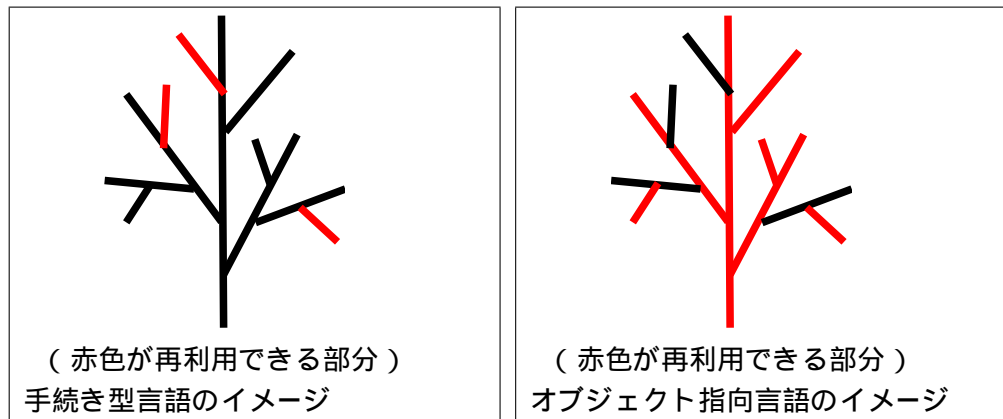
答: _____

1.3 オブジェクト指向プログラミング

Java はオブジェクト指向プログラミング (Object-Oriented Programming, OOP) 言語である。_____ (空欄 1.3.1) 言語・_____ (空欄 1.3.2) 言語・_____ (空欄 1.3.3) 言語・オブジェクト指向言語などと、プログラミング言語を分類することがあるが、このような言語の分類は、主にプログラミングパラダイム (プログラミング言語が備える部品化の仕組み) に基づいている。

オブジェクト指向言語に限らず、プログラムの部品を設計することは、単に利用することよりも格段に難しい。まずは、自分で独自のプログラム部品を設計するよりも、オブジェクト指向という仕組みのおかげで豊富に用意された Java の部品群を利用することを学ぶことが必要であろう。この節では、オブジェクト指向言語が用意する部品を利用するために必要な用語を紹介する。

オブジェクト指向 (object-oriented) とは簡単に言えば、従来の手続きを中心としたプログラム部品 (サブルーチン、関数) の利用に加えて、データを中心とした部品 (_____ (空欄 1.3.4)) の利用を支援することである。関数 (サブルーチン) はいくつかの手続きをまとめて一つの部品としたものだが、オブジェクトは、いくつかのデータ (関数も含む) をまとめて一つの部品としたものである。



最近のソフトウェアではユーザーインターフェースの部分(“枝”の部分)が重要であることが多いので、オブジェクト指向という考え方が特に必要となってきた。オブジェクト指向言語は GUI (Graphical User Interface) 部品 (ボタンやテキストフィールドなど) のような特定の用途の多種のデータ型が必要とされるプログラミングに適している。

Q 1.3.1 オブジェクト指向言語で、プログラムの基本部品となる、オブジェクトの雛型のことを何と呼ぶか？

答: _____

Q 1.3.2 オブジェクト指向言語で、クラスに少しだけ機能を追加したり、一部を置き換えたりして新しいクラスを定義することを何というか？

答: _____

キーワード:

Java, C, C++, JavaScript, オブジェクト指向、アプレット、中間言語方式、JIT コンパイラー、サープレット、オブジェクト、クラス、インスタンス、フィールド (インスタンス変数)、メソッド、継承